

時計台前から

VOL. 62
OCTOBER/2007

SAPPORO INTERNATIONAL COMMUNICATION PLAZA FOUNDATION



財団法人 札幌国際プラザ

〒060-0001 札幌市中央区北1条西3丁目 札幌Mビル
Kita1 Nishi3, Chuo-ku, Sapporo 060-0001 JAPAN
TEL:011-211-3670 FAX:011-211-3673
E-mail:sicpf@plaza-sapporo.or.jp
Homepage:http://www.plaza-sapporo.or.jp

特集 第19回国連軍縮会議 in 札幌開催

第19回国連軍縮会議 in札幌開催、ほか

コンベンション

プラザボランティア 秋のフェスタ、ほか

市民交流

札幌国際プラザのホームページが新しくなりました、ほか

Information

特集 第19回国連軍縮会議 in 札幌開催



8月27日から29日まで、札幌コンベンションセンターを会場に、「第19回国連軍縮会議in札幌」が国連軍縮室及び国連アジア太平洋平和軍縮センターの主催により開催されました。この会議は、1989年に第1回京都会議が開催されて以来、毎年国内で開催されていますが、今年の札幌会議には、アジア・太平洋諸国を中心とする18カ国68名の政府高官や専門家が集まり、『核兵器及びその他の大量破壊兵器のない世界に向けての新たなビジョンと指導力』をテーマに、活発な議論が交わされました。

当コンベンションビューローでは、地元受け入れ支援実行委員会の事務局を担い、多くの市民プログラムを企画・実施しましたが、特に若年層を取り組む努力に対しては、主催の国連側からも高い評価を得ました。

まず、会議に併せて開催された記念講演会では、会議議長の国連アジア太平洋平和軍縮センター所長・石栗勉氏が、軍縮に

向けた関係諸国のいっそうの努力と対話の重要性や、核軍縮の交渉には地道な努力が必要であることなどがわかりやすく説明しました。また、女優の東ちづる氏が、戦争で負傷した子どもたちを支援する「ドイツ国際平和村」で体験したボランティア活動について報告し、会場を埋め尽くした300名の聴衆は熱心に聞き入っていました。

中学生向け学習プログラムでは、会議傍聴や、国連職員によるオリエンテーションを行ったり、高校生プログラムは、夏休みの課題研究として、非核兵器地帯について学び、研究成果を会議参加者に向け発表、大学生プログラムでは、会議参加者である専門家の講義を聞いて意見を交わすなど、さまざまな学生向けプログラムを開催し、平和について考える場を提供することができました。(2頁へつづく)

会議参加者も感動！ 「高校生宣言」で 核廃絶をアピール

札幌市内及び近郊の高校生6校12名が、夏休みを利用して「非核兵器地帯」をテーマに論文や資料を読み、全員で議論をし



ながら、核廃絶を訴える「高校生宣言」をまとめた。国連の会議主催者である石栗勉所長のレクチャーを受けて準備を重ね、その研究成果は本会議場の壇上で発表、会議参加者から大きな拍手を受けました。会期中、特に若い層の人たちが、軍縮や安全保障問題に関心を持って会議を傍聴する姿があちこちで見られましたが、市内2つの中学校では、総合学習の一環として、会議の傍聴及び国連職員からのオリエンテーション実施など、会議の併催プログラムを積極的に活用されました。

G8サミットに向け 「エコロジー会議運営」を实践

日本政府は、2008年7月開催予定のG8北海道洞爺湖サミットを世界に向けた、環境ショーケースとして、最先端の技術を駆使した環境にやさしい会議運営を目指しています。今回の国連軍縮会議では、主催者と協力し、知恵とアイデアを集めて環境負荷の軽減に積極的に取り組みました。

まず、会議に係る二酸化炭素のカーボンオフセットのシンボルとして「記念植樹」を行ったほか、会議場で使用する電力はグリーン電力を購入、会場間の移動に使用したシャトルバスはハイブリッドカー、印刷物にも環境配慮



(水なし印刷、大豆インク、ケナフ使用) 記念品はマイ箸、事務用品はエコマーク認定商品を購入、パーティーの演出にはLEDライトやキャンドルを採りいれました。参加者の反響が大きかったのは、毎日会場で使われる飲料水に、ペットボトルではなく、オリジナル水差しと水道水を使用したことでした。ミネラルウォーターより美味しい札幌の水道水のPRになった

とともに、エコロジー会議運営可能な札幌の街を強くアピールすることにも成功しました。

札幌の会議ホスピタリティは ハイレベル

札幌での会議運営の評価が高い理由のひとつは、市民ボランティアによる質の高いホスピタリティ活動があるからといえます。国連軍縮会議では、空港到着ロビーで北海道文教大学の学生ボランティアが早朝から最終便まで、シフトを組み合わせながら、ミーティングサービスを実施。また、天神山国際ハウス・折り紙ボランティアの協力を得て、参加者へのWelcome Cardを一工夫して作成し、全員の宿泊部屋に配置しました。

ボランティア活動のエピソードとして、2004年に札幌の国連会議でボランティア活動を行った高校生たちが3年ぶりに参加し、当時贈られた著書の執筆者である広島市長と座談をする場面もありました。

札幌のボランティア活動は、多くの国際会議をサポートしながら、街のホスピタリティをますます推進しているといえます。



「JICA専門家研修(観光振興)コース」 南東欧地域5カ国7名の行政官を受け入れ

JICA(独立行政法人国際協力機構)では、南東欧地域における観光産業の位置づけの高まりや意義の増大に伴い、「南東欧地域・観光振興コース」専門家研修を昨年度から3年計画で実施しています。このコースは、観光行政に従事する行政官を対象に、持続的な観光開発・振興政策の策定および実行を目的として行われるもので、当ビューローでは、昨年に引き続き、8月6日から1ヶ月にわたり、この事業の受け入れを行いました。

『サステナブルツーリズム』を主要テーマとするこの研修のコースリーダーとしては、当該分野に造詣の深い、札幌国際大学観光学部・市岡浩子准教授が担当し、今年のカリキュラムを準備しました。

日本の国の観光政策や、北海道及び札幌市の行政としての取り組みに関する講義はもとより、当該分野での経験やノウハウを持つ専門家や民間活動家の招聘など、充実したプログラムの内容は、研修員からも高い評価をいただきました。

また、ニセコや道東などの研修ツアーでは、北海道遺産めぐりや、観光カリスマの実践するホスピタリティ活動など、日本ならではの発想や日本人ならではのおもてなしについて、その現場を視察・体験することができました。

コンベンションビューローとしては、観光コンベンション分野における実践的な経験と人的ネットワークを生かして、JICA事業への

国際協力を行うことにより、札幌の知名度向上及び国際交流促進につながることは重要であるとの見地から、今後ともできる限り受け入れ協力を行っていく予定です。



▲ 軽井沢ビックオ・マーケティングディレクター・楠部真也氏を囲んでの講義

プラザ3V 秋のフェスタ

10月14日(日)、札幌天神山国際ハウスにて、札幌国際プラザに登録する3つのボランティア団体、「札幌国際プラザ外国語ボランティアネットワーク」、「札幌ホームステイ協会」、「札幌天神山国際ハウスボランティア会」による交流会が開催されました。

交流会には、3団体に加えて、同期間ホームステイ中の日本語学院生ほかのゲストも訪れ、3団体による写真や着物の展示が施された会場内では、参加者全員にソフトドリンクとお菓子が振舞われました。

開始時刻13時30分をまわると、交流会は、各ボランティア団体による活動紹介スピーチから開始されました。暫らくの歓談の後、伝統衣装(ハンボク《韓服》、旗袍・唐装)を身にまとったの韓国語・中国語による歌の披露、ゲストを巻き込んでの日本独特のボディランゲージ・クイズといったアトラクションが実施され、最後は、参加者全員で日本の歌を合唱した後、北海盆踊りを踊りました。和太鼓の音に合わせて一同が輪になると、会場は大いに盛り上がりました。



当日は、80名を越える参加者が集い、紅葉の色も際立つ秋の冷え込みとは裏腹に、会場内は終始大変暖かい雰囲気になっていました。



▲ハンボク(韓服)を身にまとったの韓国語による歌の披露



▲参加者全員での日本の歌の大合唱

レッツトークEnglish学生サマースペシャル

8月16日(木)札幌国際プラザ5Fコンベンションホールにおいて「レッツトークEnglish学生サマースペシャル」が開催されました。札幌市内の高校生、大学生等の学生を対象としたレッツトークEnglishで「Tell me about your hobbies and interests, and why you enjoy them.(あなたの趣味や関心のあることについて教えてください)。」をはじめとするいくつかのテーマを中心として、1時間の英語でのフリートークを行いました。アメリカからの札幌市国際交流員マーティン・

トゥリッシュをはじめ、札幌市内に住むALT(Assistant Language Teacher, 外国語指導助手)が多く参加し、札幌の学生たちとの交流を楽しみました。日本人の学生たちは普段はなかなか使用しない英語での会話に最初は戸惑っていたようでしたが、時間と共に打ち解け、積極的に英語でコミュニケーションを図っていました。

これからの国際交流の高まりが期待される夏のひと時となりました。



姉妹都市パネル展

8月10日(金)から8月16日(木)にかけて、地下街オーロラコーナーで「姉妹都市パネル展」が札幌姉妹都市協会の主催で開催されました。

アメリカのポートランド市、ドイツのミュンヘン市、中国の瀋陽市、ロシアのノボシビルスク市の4つの姉妹都市を紹介する写真パネル約100枚が所狭しと展示されました。

それぞれの都市のシンボル、観光名所の写真はもとより、人々の生活、学校で日本語を学ぶ子どもたち、札幌市民との交流の様子などが写された写真が紹介され、

各都市の様子が写真を通して伝わってきました。普段はなかなか目にすることができない私たちの姉妹都市の様子に歩行者の方も足を止めて見入っていました。

姉妹都市をより市民の皆さんに知ってもらうことを目的としたこのパネル展は平成20年2月にも同じ会場で開催される予定です。



第30回韓国を知るセミナー 韓国ドラマから考える韓国社会の変化

10月5日(金)、韓国からの札幌市国際交流員 鄭 智薫(ちよん じふん)を講師に「韓国を知るセミナー」を開催しました。

今回のテーマは「韓国ドラマから見た韓国社会の変化」。日本で未だ人気の衰えぬ韓国ドラマをテーマに講師がドラマの内容の移り変わりとともに韓国社会の変化について語りました。話題が韓国ドラマということもあり、会場は女性を中心にほぼ満席となりました。

さて、一般的に日本では韓

国ドラマにどのようなイメージを抱いているのでしょうか。日本で人気のある韓国ドラマのいわば「お約束」といえば、「貧しいながらも美しく可憐なヒロイン」「財閥の御曹司」といった人物設定と、彼らを中心に展開する「お涙頂戴物語」や「純粋な恋物語」といえます。無論、かつてはこのようなドラマも韓国では人気があったようですが、現在では社会の変遷とともに人気の在り方も変化してきたようです。講師は、ヒロインの性格の変化や家族の在り方の変化、多文化共生社会を目指す動きなどを通して韓国社会の変化をわかりやすく説明しました。

会場の大半が女性であったこと、また講師本人も女性であることから、特にヒロインの性格の変化、女性の地位、結婚観などといった話題には、参加者も大きな興味をもったようでした。仕事が出来て容姿も美しく、おまけに独身であることを楽しむ「ゴールドミス」と呼ばれる30代の若い女性たちの登場、男性に対して、人生に対してより積極的な女性の存在、様々な恋愛のスタイルに寛容になる韓国社会などについても語られました。その社会の様子は日本とも通じるものがあり、参加者たちはそれぞれに思うものがあったようでした。そんな今の韓国社会を伝えるドラマは日本では未放



主催：財団法人札幌国際プラザ
送で、参加者の間では新しいスタイルの韓国ドラマを「早く見てみたい」といった囁きがわされました。

その他にも、韓国で静かに起こっている日本ドラマのブーム、日本社会との違い及び共通点などについてグラフと映像を交えた講師のわかりやすい説明を通じて、参加者は改めて興味と関心を韓国に対して抱いたようでした。

講師にとって今回のセミナーは札幌に赴任してから初めてのセミナーでした。最初のセミナーに大勢の方がお集まりいただき、また熱心に耳を傾けていただき、緊張しながらもとても思い出深いセミナーとなったようです。

日本でも人気のある韓国ドラマ。その本国での姿を覗くことで、「隣国」韓国の距離がまた一歩縮まり、今後の交流の発展が期待される一夜となりました。



第17回ロシア語詩のつどい

9月8日(土)、日本ユーラシア協会札幌支部、札幌姉妹都市協会、札幌国際プラザの共催で、「札幌 ノボシビルスク姉妹都市提携記念 第17回 ロシア語詩のつどい」が札幌国際プラザ5Fコンベンションホールにおいて開催されました。

ロシアでは詩を大変に重んじるという文化があるということから始まったこのつどいは、日ごろロシア語を学ぶ方々がテーマに基づいて自分たちの好きな詩をロシア語で朗読します。

今年のテーマは「友情」。参加者は日頃の学習の成果を存分に発揮し、プーシキンの親友にあてた詩をはじめとして、友情の尊さを讃えるさまざまな詩を美しいロシア語で発表しました。

今年のテーマにふさわしくロシアと札幌市民の「友情」が培われた一日でした。

第30回中国語暗唱朗読大会

9月30日(日)、北海道日中友好センター、札幌姉妹都市協会、札幌国際プラザの共催で「札幌 瀋陽友好都市提携記念 第30回 中国語暗唱朗読大会」が札幌国際交流館ライラックホールにおいて開催されました。

朗読部門15名と暗唱部門14名がそれぞれエントリーし、日ごろの中国語学習の成果を披露しました。中国語の発音の正確さ、表現の豊かさなどを焦点として争われました。参加者はどの方も実力者ぞろい、その美しい発表に聴衆からは惜みない拍手が送られ、また審査員は甲乙をつけるのに非常に苦労していたようでした。

瀋陽との友好の絆がさらに固まっていくことを予感させる熱のこもった大会となりました。



平成19年度大学生中国文化・語学研修派遣事業

国際プラザでは人材育成事業の一環として、将来を担う青年達が中国での語学研修・文化体験を通して国際的視野を広げ、さらに両国の相互理解を深められるよう札幌圏の大学生10名を札幌市の友好都市瀋陽市にある遼寧大学外国留学生院に派遣しています。

今年度の研修期間は8月12日(日)~8月26日(日)の15日間。研修は午前中に中国



▲ 武術体験授業の様子



語会話・ヒアリング授業があり、午後は中国文化体験授業(武術、中国茶道観賞、水餃子作り等)や瀋陽故宮など市内の歴史的建築物等の視察など、瀋陽市や中国文化を堪能できる内容でした。

また、授業の一環として、遼寧大学の学生と交流授業が3回ありました。第1回目は「日中文化紹介」。札幌圏の学生達は日本の行事や観光地等を紹介し、中国の学生達は中国茶や民族衣装等について発表。第2回目は「大学生活、将来の夢・希望する仕事について」。学生達は意見交換をおして相互理解を深めていきました。最終回は中国映画「愛情麻辣烫」を一緒に鑑賞し、中国と日本の日常生活・家族のあり方などを比較。これらの交流授業をおして共通点・相違点を学びあい、充実した授業を受けることができました。

また、今年は瀋陽市外事弁公室の表敬訪問、在瀋陽日本国総領事館、北海道銀行瀋陽駐在員事務所を視察しました。総領事館では奥正史領事から「総領事館の役割、瀋陽に滞在する人々の暮らしについて」お話を伺い、北海道銀行訪問の際は、正司毅所長より「北海道・札幌と瀋陽の経済交流」について学びました。

研修期間中は、様々な方々にお世話になり、学生達は語学のみならず、多くのことを学んだように見受けられます。日本と中国は今後ますます重要な関係とな



▲ 水餃子作り体験



▲ 遼寧大学外国留学生院夕食歓迎会



▲ 遼寧大学との交流授業

ていく中で、今後もこのような研修を通し、さらに日中の友好関係が深まることを期待します。

「防災ツアー-2007」開催

札幌国際プラザでは、札幌に在住する外国籍市民の生活を支援するため、様々な活動を行っています。その一環として、8月31日に「防災ツアー-2007」を開催し、札幌市が実施した札幌市総合防災訓練に参加しました。



今回の防災ツアーには、外国籍市民や北海道インターナショナルスクールの先生および生徒、中国帰国者の方々など24名が参加し、札幌市西区の札幌市消防学校等を会場に行われた総合防災訓練において、消火器やバケツリレーによる消火の訓練を行ったほか、地震体験車両による地震の揺れの体験などを行いました。また、災害の発生に備えるため、簡易トイレや簡易消火器、非常食など防災用品の紹介も行いました。

このほか、防災ツアーには、前回同様、外国語ボランティアネットワーク多文化共生グループ(SKY)のメンバー11名も参加し、外国籍の参加者への通訳などで活躍いただきました。



札幌国際プラザでは、万一の災害発生時に一般市民と外国籍市民とが助け合って避難生活を送ることができるよう、今後も外国籍市民や外国語ボランティア、地域の住民の方々を対象とした防災に関する活動を継続的に行って参ります。

日本文化体験

◆北海道インターナショナルスクール並びに ハウス宿泊者合同 日本文化体験

本文化体験は家族単位の集合文化体験となり、7月24日、札幌天神山国際ハウスに於いて行なわれました。北海道インターナショナルスクール(HIS)の方からはカナダの2家族、ハウス宿泊者からは台湾からの家族が参加。従って、大人4名(男性1、女性3)、女子中学生2名、小学生4名(男性3、女性1)、そして3才の男児1名の合計11名となりました。

まず、男女に分かれて全員着物に変身、小学生以下の男子は全員浴衣姿で着替え室から飛出してきました。ハウスには元々、小さい子供用の浴衣はなかったため、今回、小学生が多いとの情報に基づき、着物ボランティアの人達が、探せる範囲で小さな古着を準備しておきました。



女子小・中学生は、ほぼ大人に近い背丈なので大人同様、振袖姿に変身となりました。家族単位での写真撮影となり、エントランスホールや池の周りで何枚も写したり、また父親は映画スターを気取って、精悍な顔つきで刀を構えてポーズを取ったりしていた様子。振袖姿はきつと暑かったでしょうが、子供たちの浴衣は見ていても大変涼しく感じられました。その後は、家族ごとにお茶と折り紙に分かれてのトライとなり、お茶は、大人は全員お替りをして中には3杯所望した方もおられ、小さい子供たちは口に合わなかったのか、1杯だけ。女の子たちは全員きちんと正座のうえ、お替りしてお茶を十分に味わっていました。折り紙は、子供が多いと興味を強く示すので、

◆第11回強誘電性液晶国際会議同伴者 日本文化体験

9月5日、札幌天神山国際ハウスまで徒歩と地下鉄で訪れたゲストを、ボランティア全員で暖かく迎え、さっそく茶道からの開始となりました。茶碗の持ち方、回し方などの説明を受け、それに忠実に従ってお茶を味わっていた様子。中にはとても日本語が上手な台湾の方もおり、全員がお替りする中で、以前濃い茶を飲んだことがあるなど話が弾んだようです。別な1人



ボランティアも相当、力が入った様子。ネオは、馬、羽ばたく鶴、カエル、ウサギなど。一律みんなが同じものを折るのではなく、子供が折りたいと指差したものを一所懸命丁寧に教えていた様子。小学生の男子は、尻尾を弾いて1回転させて再び立つ馬がお気に入りのようで、何度も回転させて興じておりました。

やがてプログラムも終わりとなり、出来た折り紙をみんな袋に大事そうにしまいに、最後にゲストから、楽しい企画で大変嬉しいとお礼の言葉をいただいております。

がお手前を見よう見真似で披露、ゆったりとした流れで充分にお茶を堪能した様子でした。

次に着物の時間となり、全員が研修室へ。25分位ののち出来上がってきて、誰からもなく拍手が湧き起こり、そのまま表の池の方へ足を運び、盛んにシャッターを切ったり、切られたり。今回は頭にお飾りを付けた人もいて、とても良く似合っていました。

第2回札幌国際短編映画祭・ロケーション人材育成セミナー

今年も9月13日～17日までの5日間、第2回札幌国際短編映画祭が開催されました。さっぽろフィルムコミッションでは昨年に引き続き、映画祭特別企画として『アイアンフィルムメーカーコンテスト2007(学生大会)』を開催しました。

このコンテストは、主催者から指定された場所で指定されたテーマに沿って撮影。24時間以内に脚本制作・撮影・編集の全作業を終え、1本のショートフィルムを完成させると



▲狸小路商店街で撮影中の学生達

いう企画です。今回は昨年倍の合計13チームが参加。韓国の釜山市からも大学生チームの参加がありました。各参加者は、指定場所の狸小路商店街の思い思いの場所で撮影を開始。エントリーした作品は狸小路5丁目の東宝プラザで上映・審査会が行われました。

さっぽろフィルムコミッションのブログ(<http://www.sapporofc.jp/news/>)にもコンテスト当日の様子を掲載しておりますので、よろしければご覧ください。

また映画祭の期間中、今年度全5回の開催が予定されている、『ロケーション人材育成セミナー』第1・2回が開催されました。第1回セミナーでは韓国総合芸術学校映像院



▲札幌国際短編映画祭関係者



▲第1回セミナー講師のバク・カンズ氏(左側)



▲第2回セミナー講師の小泉徳宏氏

教授・釜山フィルムコミッション代表のバク・カンズ氏をお迎えして「韓国における若手映像教育」と題し講演が行われました。また第2回セミナーでは今夏、オール北海道ロケを敢行した「ガチボーイ」(来年3月公開予定)監督、小泉徳宏氏による「若手映像クリエイターの目指す方向」と題した講演が行われました。第一線でご活躍されている両氏の豊富な経験に基づいたお話に、およそ100名の参加者の皆さんは熱心に聞き入っていました。

宿泊者講演会

本講演会は今年で連続13回目を迎えました。テーマは「ヨーロッパにおける宗教と社会」と題し、宗教と文化の衝突という視点に立って、回教とキリスト教の関係を歴史的に解説をしました。今回はプロジェクターによるスクリーンへの投射は行わず、掲示されたヨーロッパの拡大地図と配布した資料に沿って解説を行いました。項目としては、「ヨーロッパの宗教的地図」、「国家と宗教」、「信教の自由」などなど。

スピーチそのもので約2時間10分の熱演ののち、最後の質問コーナーでは4名の方から質問が出され、それに対し、ファールベック氏は大変分かりやすく答えていました。アンケートへの協力を出席者に呼びかけ、終了したのは16時30分と、かなりの盛会となりました。



▲ヨーロッパにおける宗教と社会

国際ハウス講演会・札幌大学トークシリーズが終了

「世界の激動する教育を考える」というテーマで札幌大学との共催で5月から5回シリーズで実施した講演会が終了しました。札幌大学のアメリカ、イタリア、中国、イギリス、ロシア出身の外国人教員が、少子化や生涯教育等の切り口で大学が果たす様々な役割と今後の可能性や教育のあり方について、お国事情を交えて講演しました。

毎回各講師の出身国を紹介する展示を風樹舎主宰の酒谷和恵さんに企画していただき、講演の合間の休憩では札幌大学のスタッフがお茶とお菓子のもてなしをしました。和やかな雰囲気

の会場で参加者と講演者の「教育」についての熱心な議論が行われ、5回すべての講演に出席した参加者もおりました。

今回の講演会は、国際ハウスの設立目的のひとつである「市民と外国人研究者との交流の場」としての役割を十分に果たし、アンケート調査で今まで国際ハウスを訪れたことの無かった方が多数参加している結果がでました。

講演会実施にあたり、ご協力をいただきました関係各位にお礼申し上げます。



▲7/21「中国の教育改革」張偉雄教授 ▲お茶の木など、中国をイメージした展示



▲9/22「ライフロングラーニング」ウィリアム・グリーン教授

Information インフォメーション

01 札幌国際プラザホームページが新しくなりました!

昨年度から、札幌に住む外国籍市民のための多言語情報ウェブサイトや、ロシアとドイツの国際交流員によるブログページを新規に運営していますが、今年10月から札幌国際プラザのホームページが新しくなりました。札幌に在住する市民の皆さまをはじめとして、より多くの方にわかりやすく情報を提供できるように努めていきますので、よろしくお祈りします。

URL / <http://www.plaza-sapporo.or.jp/>



02 バナー広告を募集しています!

リニューアルした、国際プラザのトップページにバナー広告を掲載してみませんか。

03 コンベンションホール(貸会議室)のご案内

国際プラザが入っているビルの5階にあるコンベンションホールは会議や研修会などの各種イベント等にご利用いただけます。地下鉄大通駅から徒歩5分、札幌のシンボルである時計台の正面にあり、時計台がきれいに見える会議室です。

利用時間 / 月曜～金曜 午前9時～午後5時30分
土曜日 午前9時～午後5時
(日曜日・祝日は除きます)



▲全体で185㎡、80人超の会議も可能です!

バナー広告掲載とコンベンションホールの貸出しについては、札幌国際プラザ総務課までお問い合わせください。☎(011)211-3670

04 ミュンヘン・クリスマス市 in Sapporo 開催



リターナブル容器の使用と回収にご協力ください。

昨年に引き続き、飲食物の販売をリターナブル容器（洗って使いまわしができる容器）で行います。オリジナルマグカップはお持ち帰りしていただくものですが、写真のリターナブル容器は持ち帰らず、回収場所に戻してくださいね。ビールなどの飲料についてはプラスチック製の透明カップを使用します。

また、リターナブル容器洗浄のボランティアも募集しています。詳細は札幌市コールセンター／222-4894へ11月1日から12月13日までの間にお電話下さい。シフト作成に時間を要するため、できるだけお早めにご連絡ください。

《リターナブル容器》



姉妹都市ミュンヘン市の魅力に触れてみませんか。

今年は札幌市とドイツのミュンヘン市の姉妹都市提携35周年を迎えます。提携30周年を記念して始まった「ミュンヘン・クリスマス市 in Sapporo」も初冬の札幌のイベントとして大変好評をいただき、第6回を数えます。

ホワイトイルミネーションの光の中、様々なお店が伝統的なクリスマス飾りをはじめ、クリスマス市ならではのグリューワインやお菓子を販売します。

また、運営本部のあるヴァイナハツ・パビリオン等で今年もオリジナルマグカップを販売します。ミュンヘン市から札幌市のクリスマス市会場へ

サンタクロースが向かっている絵柄で、ミュンヘン市と札幌市の強い友好の絆を表しています。

週末には素敵なイベントでクリスマス市会場がさらに盛り上がります。小さなお子様向けの人形劇や手作り講座などの屋内イベントをはじめ、屋外特設ステージではジャグリングやコーラス、楽器演奏など見て聴いて楽しいイベントが盛りだくさん。また、12月2日(日)には毎年恒例の行事となっている『プレゼントデー』を開催します。クリスマス市会場の商品をご購入いただいた方には素敵なプレゼントが当たるチャンスがあるので、皆様のご来場をお待ちしています！

【期間】11月22日(木)～12月16日(日)25日間

【時間】月～金 12:00～21:00
土・日・祝 11:00～21:00

【会場】大通公園2丁目
ホワイトイルミネーション会場

【オープニングセレモニー】

11月22日(木)16:30～

【クロージングセレモニー】

12月16日(日)20:30～

【問い合わせ】

ミュンヘン・クリスマス市 in Sapporo
実行委員会 事務局

電話 011-211-2105 FAX 011-232-3833



賛助会員限定特別企画

～「マグカップ引換券」贈呈のお知らせ～

賛助会員の皆さまへ日頃の感謝の意を込め、クリスマス市の雰囲気絵柄にしたマグカップ(2個)の引換券をささやかながら贈呈させていただきます。

本年のクリスマス市の開催期間中、クリ

スマ市会場に引換券をご持参いただいた方にマグカップをお渡しいたしますので、ご希望の方はご来場下さいませようお願いいたします。(詳細に関しては、11月号プラザだよりと同封する「引換券」をご覧ください。)



20ヶ国以上の留学生と異文化交流、多文化の共有を体験できる日本語学校です。

あなたのご都合に合わせた3コース

日本語教師養成講座

教育訓練給付制度適用

(コース修了後、授業料の40%、最大20万円が戻ります。)

■専科(6ヵ月間集中)

■本科(夜間一年)

■本科(全日制・夜間)

説明会随時実施中!

※入学時期は4月、10月の年2回。
無料で入学案内をお送り致します。
お気軽にお問い合わせ下さい。



外国人のための日本語

JAPANESE FOR FOREIGNERS

■大学進学コース ■一般日本語コース

(財)日本語教育振興協会認定校

札幌国際日本語学院

Japanese Language Institute of Sapporo

〒064-0806札幌市中央区南6条西26丁目2番7号
地下鉄円山公園駅徒歩7分

TEL.011-562-7001 FAX.011-562-7002

http://www.jli.co.jp E-mail:info@jli.co.jp